

KDTA



1990

第50回大会

九州医師テニス協会25周年記念



DUNLOP

やわらか

レスポンス。

手ごたえ

③ しなやかなパワー
シャフト部分の厚みやヘッドのハイコンタクト、
スリムなフレームが、振り抜きやすさと
しなやかなパワーを生み出しました。

① うつくしくスウィング

ハイトレバを
フェイスリップに加え両サイドにも装着。
線芯締め忘れし、
線芯のゆるみは、線芯の隙間を埋め、

② エキサイティングカラー

カラーリングには注目のネオンカラーを採用。
あざやかなグラデーションが
テニスの楽しさをさらに広げます。



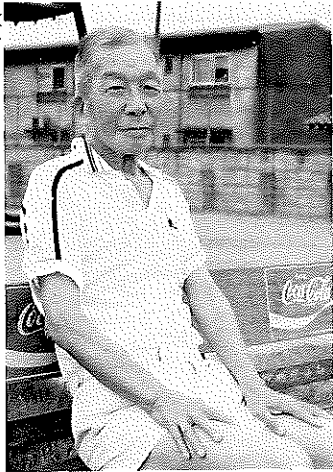
VAI-5 cinq

まだまだあります。VA-5のやわらか高機能。④ハワフルフレーム：最大厚26ミリの高剛性フレームの採用で反発性能をさらにアップ。しかも、独自のストリングパターンの採用で、手応えはあくまでもやわらか。⑤うれしいオーバーミッドサイズ：男女を問わず、あらゆるプレーにフィットする100平方インチのオーバーミッドサイズを採用。⑥こだわりのI.M.S.システム：フレームの両サイドにバランスを内蔵。パワーとフェイスの安定性をさらにアップ、さらにやわらか。

●標準小売価格 ¥24,000 (フルレンスカバー付、フレーム価格)
●カラー/パープル、グリーン ●素材/クラファイト、グラス、ケブラー、ウイスキー ●サイズ/USL1+2(306~320g)フレームのみ SL2+3(321~335g)フレームのみ ●推奨ガットテンション/45~50ポンド ●フェイス面積/100平方インチ(46°オーバーミッド)
※記載の価格は税抜き希望小売価格です。



新発売



ごあいさつ

九州医師テニス協会会長

中島定次

昭和41年10月9日、第1回KDTAテニス大会を福岡東公園テニスコートで開催してから、早いもので今年（平成2年）11月25日開催の大分大会で第50回を迎えることになりました。

創立15周年を兼ねた第25回大会の時は、KDTA記念誌第1号を前副会長、北九州市門司区の故時政希典先生のご尽力で発刊いたしました。これは昭和52年9月より仕事にかかり、翌53年春に完成しております。

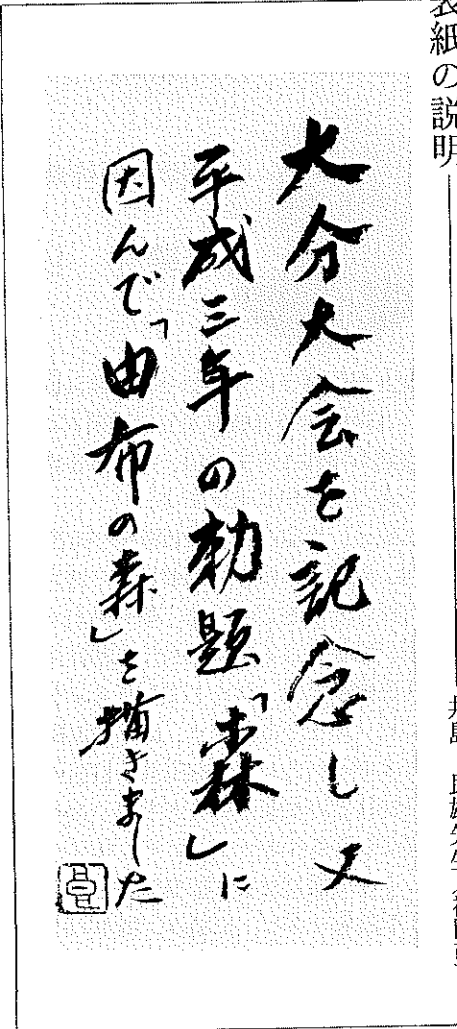
今回の50回大会でもKDTA記念誌第2号の発刊を心している由、誠に同慶にたえないところであります。

第1回大会の昭和41年の頃は、マスコミから必ずと言ってよいほど医師の接頭語に「青白き」と書かれておりましたが、昨今は黒々とした元気な顔ばかりで安心です。参加者も第1回大会は微々たるものでしたが、その後は回を重ねるに従って急増しました。これはちょうど世の中のテニスブームと合致したためと思われます。

今後も九州医師テニス大会がますます発展することを祈念いたしまして、ご挨拶といたします。



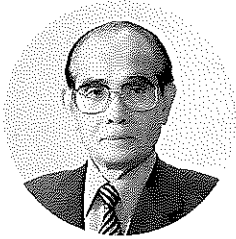
ごあいさつ……………	中島 定次…	1
祝 辞……………	櫻井 日出生…	4
”……………	中牟田喜一郎…	4
◇		
写真グラフ「KDTA25年」……………		6
◇		
医師テニス協会と私のテニス歴…	中島 定次…	8
全日本医師庭球大会で優勝……………	福井 恭一…	9
副会長就任ごあいさつ……………	福井 恭一…	9
全九州ドクターズテニスクラブの 発展を願う……………	有馬 哲三…	10
九州医師テニス協会事務局16年…	松田 正次…	11
全九州医師テニス大会、世界医師 テニス選手権大会について……………		12
テニス雑感……………	池田 数好…	13
再びラケットを握る日を夢見て…	加藤 俊…	14
春には再起を期す……………	松瀬 秀夫…	14
私の闘病と近況……………	竹末 庸夫…	15
九州勢、世界の檜舞台で大活躍…	当山 堅一…	16
世界医師テニス大会の思い出……………	板家 茂樹…	21
ポストットからブダベストまで…	井島 良雄…	22
思い出に残る優勝……………	藤井清太郎…	26
遂に連続50回出場……………	中島 教隆…	26
大分はテニスに適した良い所……………	内田 良蔵…	27
「継続は力なり」を信じて……………	小松 才治…	28
我流テニスを楽天的に……………	久米 只彦…	29
たかがテニス、されどテニス……………	大塚 節雄…	29
ビバ!!沖縄……………	横光 洋…	30
雲仙、霧中のテニス……………	一安 弘文…	31
	成田征四郎	
私をやっつける人は鬼です……………	秋武 強…	32
グッドルーザーへの道……………	秋武 邦子…	33
連敗もまた楽し……………	岡崎 薫…	35
◇		
写真グラフ「張り切ってます、門司の連中」……………		36
◇		



早朝テニスで足腰鍛え……………加来 数寿…38
 テニス自分史……………江島 一至…39
 足腰が動く限りはラケットを
 放さない……………河田 藤治…40
 ビットインして考えること……………吉岡 俊夫…41
 テニスは楽しく……………奥 共栄…42
 貴重な1勝……………岩本 皓…43
 八幡医師会テニス同好会の活動と
 スポーツ雑感……………松永 等…44
 テニスと自転車……………和田 暢夫…45
 テニスについて思うこと……………浦上 陽一…46
 福岡との対抗戦を望む……………小串 俊雄…46
 テニス事始めの頃……………江崎泰明・江崎洋子…48
 テニス諷詠四季拾句……………園本 穹子…49
 楽しいテニスで素晴らしい
 人生を……………林 明亮…51
 もう一度なんとか勝利の美酒を…原田 恒喜…52
 思い出すまま……………佐伯 清美…53
 ストレス解消、肥満防止の良薬…山田 収…54
 家庭平和にビバ!!テニス……………根城 圭子…54
 テニスを生涯の友として……………中川 邦男…55
 エンジョイ・テニス……………豊増 弘幸…56
 明日への活力……………荒木 崇文…57
 テニスの醍醐味……………二口 稔…57
 基礎体力づくりに励む日々……………伴 俊幸…58
 軟式から硬式へ、転向のすすめ…小川 一郎…59
 テニスに魅せられて……………入部兼 一郎…60
 ただいま腰痛療養中……………松下 紀文…61
 青空の下のテニス……………尼子 春樹…61
 山口市医師会テニス同好会
 現況報告します……………赤川 悦夫…64
 テニスコート今昔……………林 征雄…65
 ドナがいたからコートが出来た…野瀬 善光…67
 ミスショット……………小田 清彦…68
 とにかく私は最年少……………梅原 豊治…69
 我が趣味は広く浅く……………尾中 良久…70
 九州ドクターズテニスに於ける山口県徳山の
 メンバーに関する研究……………黒川 健甫…71

テニス人生の岐路……………小林 詢弥…73
 なつかしい思い出の数々……………大串 清波…75
 私の道楽・飲む、打つ、
 ひっかける……………太田 敏郎…76
 最大の思い出、一般A組優勝……………神田 亨…79
 対外試合、申し込んでください…三井 健史…80
 アンケート「各地区の活動状況」……………82
 年 譜……………83
 大会記録（第1回～第50回大会）……………84
 ★編集後記……………秋武 強…119

お祝い申し上げます



福岡県医師会長

櫻井 日出生

この度九州医師テニス協会では、第50回の記念大会を、九州医学会主催地大分で開催され、併せて記念会誌を発刊されます由、心からお慶び申し上げます、一言ご挨拶申し上げます。

承りますと、貴協会は、会員数約 300名を数え、年に2回、福岡と、医学会開催地とで開かれ、逐年盛大になっているご様子で、体を動かす事、頭を使う事、休養をとる事は、当に高齢社会を迎えるの私共の健康のキーワードでありますから、その一つにピッタリであります。庭球は医師の間では格好のスポーツとして各教室共、自前のコートで練習をされていた昔の事などを思い合わせて、息長く続けられるスポーツとして、私などはむしろ、羨しくさえ感じます。私事で恐縮ですが、私は昭和8年以來ラグビーに励み、戦争の中断を挟み、今もとよりラグビーを楽しんでおりますが、累積の負傷、捻挫、血腫形成等は、膝関節の変形、動揺、機能不全を来し、心は矢竹にはやれどもこの状況で、時にはもっと負傷の少ないスポーツを選んでおっただらと思う事さえあります。最近では医師会も健康スポーツ医学に取り組み、健康スポーツのコンサルタントとして、認定医制を打ち出しておりますが、テニス愛好家の増えます中、この方面でも、指導者として、よきアドバイスを提供されますように希望いたしますご祝辞いたします。



九州テニス協会会長

中牟田 喜一郎

九州医師テニス協会の結成25周年を心からお祝い申し上げます。

貴協会は昭和41年、福岡市東公園のテニスコートにて、第1回の全九州医師テニストーナメントを開催され、以来春と秋の年2回、回を重ねるたびに隆盛を極め今日に至りました。

誠に同慶の至りとお喜び申し上げます。

テニスは今、国民皆様の広い層から手軽で身近な生涯スポーツとして愛され親しまれております。

そして健康増進、体力向上に大きな役割を果たしております。

私の座右銘は「練習は不可能を可能にする」という小泉信三先生のお訓えです。

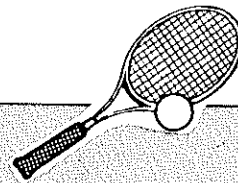
これは「何ごとも努力すれば必ず酬われる」という意味のお言葉と思います。

最近では体を動かし汗を流し、一所懸命に目標に向かって努力することが少なくなりました。

いかに技術が進みハイテクの時代でも、基本を守り実行して、たゆまぬ習練の積み重ねが勝利への道と存じます。

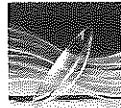
会員皆様のより一層のご精進を期待してやみません。

終わりにになりましたが、結成25周年を機に九州医師テニス協会が益々充実発展されますよう祈念してお喜びのご挨拶いたします。





コンタクトレンズは、ニチコン。



高酸素透過性ハードレンズ
O₂FRESH EX
オーツーフレッシュ
■連続装用は事前に必ず眼科医の指導を



やさしき、見つけた。
思いやりのEX。

● 付属品もオシャレに



O₂FRESH EXはこのような方に適します。

- 連続装用する必要がある人
- いままでの酸素透過性コンタクトレンズで
 - 疲れやすい人
 - 汚れやすい人
- はじめての人
- 長時間装用となる人
- 不規則装用となる人
- 充血のある人
- 乾燥感のある人

日本コンタクトレンズ

福岡市中央区大名2丁目12-12赤坂産業ビル7階
お客様窓口

TEL<092> 781-3766

※コンタクトレンズは医療用具です。必ず眼科医の検査・処方を受けてお求め下さい。

東京・札幌・秋田・盛岡・仙台・新潟・静岡・沼津・富士・清水・浜松・名古屋・金沢・長野・高山・大阪・京都・神戸・姫路・岡山・広島・高松・福岡・大分・熊本・鹿児島

白衣と白球と

九州医師テニス協会創立25周年



▲第33回オパール招待テニストーナメント（1986. 10. 10／福岡・天神岩田屋総合グラウンドコート）で、中島会長、故時政副会長をはじめ、九州医師テニス協会のメンバーが顔を並べている

KDTA



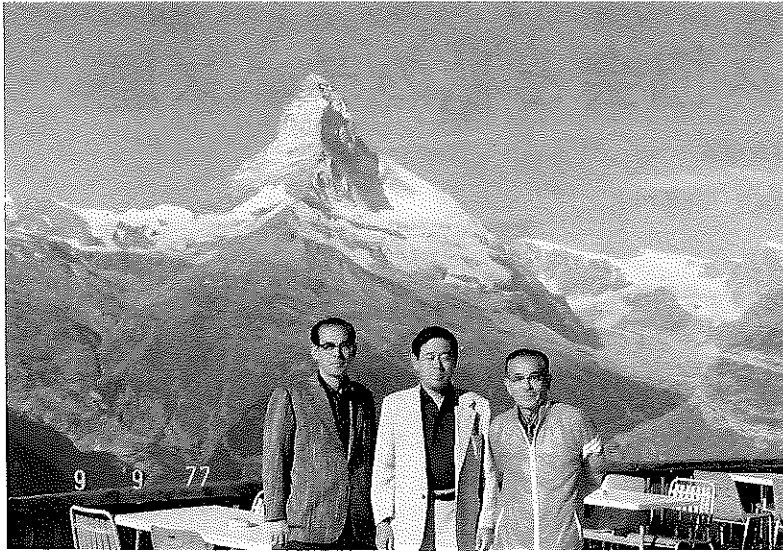
1978 第25回大会

九州医師テニス協会15周年記念

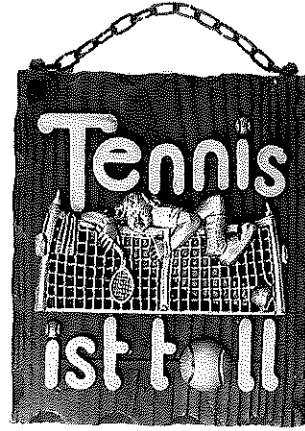
▲あれから10年、なつかしい15周年記念誌の表紙、絵は今回と同じく井島良雄先生



▲全日本千葉大会（1986. 9. 14）で、中島会長、井島良雄氏（福岡）内田良蔵氏（門司）秋武夫妻（門司）ら

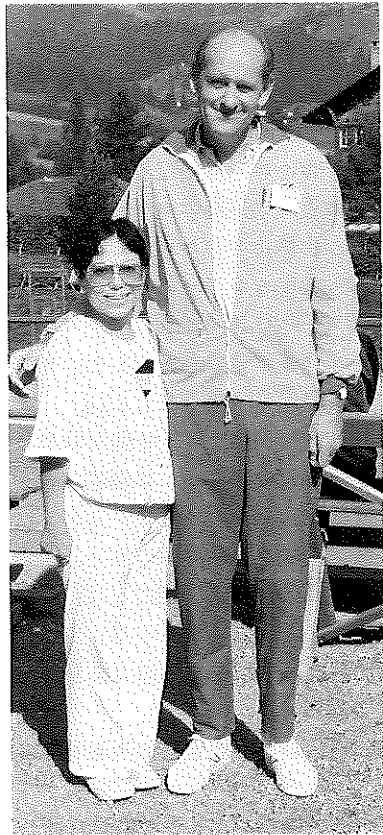


▲1981年の大会、マッターホルンを背に、有馬哲三氏（鹿児島）
秋武強氏（門司）松瀬秀夫氏（熊本）



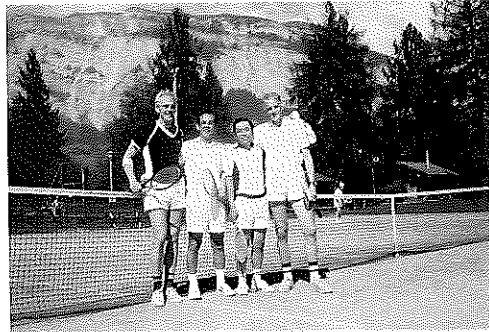
▲1981年の世界大会の時、ロマンティック街道の店で買った壁掛け

思い出の世界大会



▲最長と最？ 身長2.03mのスウェーデンのドクターと...

▶1981年、準々決勝で戦ったボルグランド兄弟（スウェーデン）と有馬・秋武組



◀1981年7月の世界大会（ドイツ・ガルミッシュパルテンキルヘン）ハイデルベルグ大学前の九州・広島など西日本勢

医師テニス協会と私のテニス歴

九州医師テニス協会会長

中島 定次〈大牟田市〉

昭和49年10月10日に全日本医師テニスを明治神宮コート、朝日生命コートで挙行。超壮年は中島定次・七瀬雅尚組、壮年は有馬・松下組の九州で優勝。その夜、神宮会館で中島議長として、規約その他を議決した。

その後、京都、松山、福岡と開催した。広島では中島・太田が優勝。ちょうどその日は、広島カープが日本シリーズで勝ったので、同じホテルの同宿者にも祝賀タバコの配給があった。帰りに駅前の青物屋に寄ったら、松茸が沢山入荷していたので、土産に買って帰って大いに喜ばれ、沢山おいしく食べたが、その後松茸に会ったことがない。

次は世界医師テニス協会加入を計画し、S. 51年に加入。S. 52年5月初め、井島氏と世界大会出場を決め、5月末、第23回下関大会の席上、同行者を募集したところ、小河、林氏（広島）が同意され、吉田、進藤両氏も同行を希望され、ポストタット（スウェーデン）に着いてみたら、関東からも6人来ていて、都合12人出場。大会の出場200人、女医60人、会期は8/14～8/21まで。一般、壮年、超壮年の3種の単複、女子単複、混合、別にこれに併行して単2と複1の国対国の試合があった。

九州医師庭球連盟－日本医師庭球協会－世界医師庭球協会のルールが敷かれたので、一応安心した。

ポストタットでは、初めて日章旗がメインポールに高々と上がった。

世界大会は、冬季スキー大会などのあった田舎であり、一ヶ所に10日間くらい居座るので、外国の風景、習慣を見るのによい機会だ。お互いの選手はコートで何度も会話し、前夜祭、歓迎宴、お別れパーティーがあり、片言の英語かドイツ語かで話していると、いつの間にか友達になれるし、2～3年続けて出場していると、御先方も同じ人が出るので、すぐ親しさを増す。

アメリカの Mc. Campbell 会長などは、小生を非常に大切にしてくれたものだ。



◀ 第九回世界大会の歓迎会（妻恋）
フリス（スイス）のホテルで ▶



先のポストタットでは、コートが足りないので、井島君のシングルは近くの別荘のコートであったが、途中雨が降り、小休止をしたら、奥さんのお茶のサービスがあり、アットホーム的だった。

次のフリス（スイス）は5,000人ばかりの農村だったが、ホテルは豪華そのものでした。帰りはマッターホルンを見学して帰りました。

ヘルシンキでは、初日（月）から単複大分やって、複は準決勝に進んだのですが、準優勝は金曜日とのこと。それまでぼんやり待っているわけにもいかず、テニスは棄権して、湖水の多い、菜の花の綺麗な平野を北に飛び、北極圏に入り、入圏祝など催し、トナカイと遊んで来ました。

帰りはオランダ、ベルギーを見て帰りました。

中島定次略歴

明治37年1月24日 長崎県西彼杵郡西海町に生まる。

大正14年 九州帝大医学部に入学を機会に軟式テニスより硬式に転換す。

昭和5年 全九州庭球選手権複1位（村山長一・中島定次）

単2位 中島定次



傘寿お祝いテニス大会、ありがとうございました

昭和25年～29年 壮年単 毎日選手権 5年連続優勝

昭和25年～29年 壮年単 全九州選手権 5年連続優勝

昭和29年 全日本7位

全日本選手権試合に出場せずに全日本にランクされたのは先生だけですと全九州庭球協会理事

全日本医師庭球大会で優勝

九州医師テニス協会副会長

福井 恭一

(北九州市・門司)

第17回全日本医師テニス岡山大会が平成2年10月19日より21日まで岡山市浦安総合公園庭球場で開催されるにあたり、老高年のダブルスに福岡市の池田数好先生と参加し、夢に見た優勝を成しとげたが、これも池田先生のお蔭だと感謝いたしております。

かえりみますと、これまで全日本庭球大会には度々出場しましたが、なかなか優勝することが出来ませんでした。門司の池田文字雄先生と岐阜で、秋武先生とは伊勢で、優勝戦で敗れましたが、多くは1～2回戦で敗退でした。それでも内田先生と静岡で1回戦で敗れたもののコンソレーションで本戦同様一つ一つ勝ち進み、激戦の末、優勝することが出来、金メダルをいただきました。この金メダルも泥棒に純金メダルと間違えられて取られたことが残念で、今でも思い出されます。コンソレ優勝でもうれしいものです。



副会長就任ごあいさつ

九州医師庭球連盟も発足以来25年、大会50回に及び、心からおよこび申し上げます。中島会長をはじめ先輩各位のご努力が今日500余名に及ぶテニス同好の友を得るまでに発展しましたことに感謝せねばならないと思っています。私も今回、前時政副会長の後任として、49回全九州ドクターテニス大会時の理事会においてご推薦いただき、同日総会において承認をいただきましたが、ご存知の通り先輩の方々のように学生時代からテニスの選手としての輝かしい戦績を全くもっているわけではありませんし、しかも40歳から健康上の目的でテニスを始めたもので、はたして対内外的にもこの大役が勤まるものか心配いたしています。

中島会長をはじめ有馬副会長並びに役員各位のご指導とご鞭撻を賜り、また会員各位のご協力を得ることが出来るよう努力いたす所存でございますので、よろしくお願い申し上げ、新任の挨拶といたします。

今回、池田数好先生とのペアは初めてで先生はかつての全九州のランキングプレーヤーだと聞

長、田中圭二氏によりほめられた。昭和29年広島国体では、全日本壮年複1位の藤生・横山組に中島・松尾組で勝っている。単3位の藤生に中島が勝つ。仙台国体では、全日本5位の渡辺に中島が勝っている。

昭和30年 全日本9位

昭和31年 全日本10位

昭和32年2月 西日本スポーツ賞受賞

国体6回、都市対抗5回出場

昭和58年12月12日 日本テニス協会創立60周年に当たり、高輪プリンスホテルにおいて、皇太子殿下御臨席のもと、表彰状および功労賞受賞。

(協会より代理出席)

昭和60年12月15日 九州テニス協会創立60周年に当たり、福岡全日空ホテルにて、県知事、市長御臨席のもと、表彰状、功労賞受賞す。

昭和58年7月31日 二日市、岩田屋コートにて、有志一同より傘寿お祝いトーナメントを挙げてもらう。

いていましたし、また、これまでに数々の戦績を残しておいでになりますので、先生からお誘いを受けたときは我が耳を疑い、本当に私でよいのかと思いました。

先生とはたまたま一昨年、神戸で開催された第17回世界医師大会で、70歳以上シングル3回戦で対戦、6-2、4-6、6-3で敗れましたが、先生も当時のことをいくらか記憶されておられたようで、実は内心私も少しは実力を認められたかと、うれしくもあり、反面、大いに心の負担を感じ、以来練習に励みました。

足関節捻挫を克服しての練習、基礎体力の充実、汗も充分かきました。少しハッスルしすぎたようですが、その成果は確かにあったようです。1組リーグ戦で小河（広島）柴田（東京）組に6-0、矢部（栃木）大石（三重）に6-0、柏木（兵庫）里見（大阪）組に6-3で勝ち、優勝戦では強豪藤森（大阪）林（広島）組との決勝になりました。立ち上がりが悪く、一挙に3-0で追い込まれましたが、奮戦の結果4-4まで追上げた頃は、秋の日はすでに西に沈まんとしていました。ここで

は更に試合を進めるか、明日に延ばすかとの話合いがあり、普通ならば明日にしましょうというところでしたが、明日では都合が悪いので、（実は翌日は家内と大原美術館や倉敷の見物に出かける約束をしていました関係で）ぜひ今日中に試合を進めることをお願いしましたところ、それではタイブレークでということになり、試合続行。これも4-1まで追い込まれ、あわやこれまでかと思いきや、ついに5-4と追い上げ、池田先生のサーブで5-6と逆転、もうこの時間になると闘の中の激戦で、やっと5-7で幸運をつかむことが出来ましたが、藤森、林両先生には、日没寸前、試合続行をお願いしたために大変気の毒なことをしたと思っています。

今回行われた浦安総合公園庭球場は、岡山空港の近くで広大な埋め立て地に造られたすばらしく環境のよい、しかも綺麗に整備されたアンツーカコートで、試合も大変しやすかったし、また近年まれに見る秋のすがすがしい好天気にも恵まれたことは天に感謝せねばと思っています。



全九州ドクターズテニスの 発展を願う

九州医師テニス協会副会長

有馬 哲三（加世田市）

昭和41年10月、九州医師庭球連盟が発足し、第1回大会が、福岡市東公園県営コートで開催されてから、早や25年、第50回大会を迎えることになり感無量の想いです。

発足当時、会長・中島定次先生を中心に、太田、井島、深松、鈴木、鮎川、安藤諸先輩の御尽力があった由で、改めて先輩の方々的一方ならぬ御苦労に対し、敬意を表したいと存じます。以来、会員も年々増加し、年2回の大会も盛況を極め、慶賀に堪えません。創立当時の意を体して、私共テニス愛好者が、いつまでも大会が継続され、全九州ドクターズテニス協会が、益々発展することを願ってやみません。

小生25年を回顧し、懐しい思い出が尽きません。幾度か優勝した時の喜び、また苦杯をなめた時の無念さ、九州・山口各地への遠征旅行の楽しかった思い出等々。よき先輩、同僚に交遊をいただき、よき友と組み、楽しく過ごしたテニス人生

25年、満足感に浸りながら、只々皆さんの友情に感謝の気持で一杯です。

テニスは見て楽しむスポーツではない。自分でプレーして始めてテニスの楽しさが味わえる。テニスの醍醐味にとりつかれて50年（七高に入り、17歳より硬式テニスを始めた）文字通りのテニス狂の一人です。ある日、先輩の方に、「有馬君、君は僕の出場するテニス大会にはいつでも顔を見せるが、一体病院は大丈夫なのか」と質問され、はたと返事に困ったことがありました。実は開業以来30年間、テニスのために、毎土曜日、鹿大第二外科の医局の先生方に留守番に来て頂いたお蔭でありまして、感謝のほかありません。

テニスはむずかしい。なかなか上達しない。小生は全くボレー、スマッシュが苦手である。自分の欠点を直したい。死ぬまで駄目かも知れないが、自分のテニスの完成へ挑戦したい気持で一杯である。また、テニスはライバルがいるから楽しいと

も思う。健康のために精進し、テニスの出来る間は、仕事も頑張り続けたい。今後共よろしくお願ひ致します。

鹿児島支部では、松下紀文名誉会長先生を中心に、入部、豊平、宇根の諸先生の世話で、ドクター

ズクラブを結成、家族ぐるみで、年1～2回の懇親大会を行っています。近県との対抗戦等実現したいものです。

最後に、協会の発展と、会員諸兄の御健勝を御祈り致します。

松田 正次 〈福岡市〉

昭和41年10月9日、九州医師庭球連盟が結成され、福岡市の東公園にて第1回の全九州ドクターズテニストーナメントが開催された。以来、年2回の全九州の大会が続けられたが、軟式を主として結成されていた日本医師庭球連盟からの依頼を受け、昭和49年秋に福岡市にて全日本医師庭球大会を開催することとなった。日本医師庭球連盟は年に1回大会を行い、硬式、軟式両方に参加してよく、会員は前回2回の出場者となっていた。役割分担を決め東公園の硬式及び軟式のそれぞれのテニスコートにて昭和49年9月22日に硬式を、翌9月23日に軟式の全国大会の開催に走り回ったのが運のつき、全九州もひきつづいて世話をせよとの事となってしまった。昭和54年8月に九州医師庭球協会と改名、次いで昭和56年日本テニス協会の改名にあわせて、九州医師テニス協会に改名して今日に至っている。

九州医師テニス協会では会計は福岡市博多区の原因恒喜氏が担当しているが、年会費1000円、入会費1000円（その年の会費免除）、80歳以上の方は年会費免除となっている。地区により取りまとめて送金してくれるのは誠にありがたい。数年分前払いして下さる方もあるが、大部分は年2回発送の大会案内状や会報と共に振替用紙を利用して請求を行っている。2年以上入金されない方や住所変更で連絡のつかない方はやむ無く退会と認める事となる。

会員名簿は昭和48年から今の形式の名簿をおよそ2年に1回の発行であるが、大会毎に2-30名の入会者はあるものの退会者もあり、平成2年末の現在会員数は531名である。転居や退会を通知

九州医師テニス協会事務局16年

して戴ければ良いが、ごく少数で、数年後に大会出場し会員の筈だがとか、入会の意志は無かったとかの申し出には困惑する。住所その他の改訂にもなかなか手が懸かる。通知文書が転居先不明で返送されてくると、所属医大の教室や地区の理事に照会したりで面倒が多く、出張の多い若い方には十分な通知が出来ない事もある。

名簿の整備や大会案内の通知の他に事務局はその下準備に追われる。秋の大会は九州医師会医学会の行事として九州各県に順次回されるので、1、2年前からその地区の理事との打ち合わせが必要だが問題は春の大会である。大会の出場者数が段々増加し100名を越える事が多くなり、そのため大会には日曜日のテニスコート10面以上の確保が必要となり開催場所が限られてくる。春は福岡県あるいはその周辺となっているので山口県に加勢も必要となってくる。いずれにしても2年位の先を見込んで予備交渉が必要である。開催地から毎回試合成績、前後の印刷文書すべて、会計報告の送付をお願いし、また名簿の訂正に利用のため申し込み書の現物の送付もお願いしている。次回または次々回の担当理事あてに参考文書、10年位の会計報告、最近4-5年の成績、最新の訂正済み名簿の送付が必要である。各大会の懇親会の前には、役員会について総会がありその際の協議事項や報告事項についての連絡や問い合わせの準備が必要で、大会後には会報にての会員への報告前に各地区の理事や役員に早急に総会の報告を送付しなければならない。日本、九州テニス協会、日本医師テニス協会、日本医師庭球連盟などとの連絡や本会会員、他の協会役員その他への連絡や本会会員、他の協会役員その他への援助の依頼など余り表に出ない仕事も多い。

この協会の事務局の仕事だけであつたら、そう緊急の事務ではないので、診療の合間でこなせるが、一時は県の臨床整形外科医会や地区の会の事務なども加わり、てんてこまいの頃もあった。複写機やワープロの発売以後は事務処理の簡略化が

出来、頗る楽になった。宛名の手書きや和文タイプライターの時代に比べると文明の利器のありがたみを感じられる。

他の競技と同様にテニスのプレーにはメンタルな要素が多い。一人気になる患者を抱えているときは当たりも悪く、エラーも多くなる。福岡での大会で色々気を使った時は勿論、他の県主催の大会でもどうもプレーに不思議に気の入らぬ事が多い。そうでなくとも歯切れの悪い球すじが益々なまっちょろいものとなって成績は不満足な事が多

かった。

正式に協会の事務を引き受けてから満16年が過ぎた。平成3年5月の福岡での第51回全九州テニス大会のお世話を最後に20年余りに及ぶテニスの世話係から解放されたいものと思っている。今度は世話をされる立場になり、少し練習にも身を入れたいと思っている。佐賀大学学長退職後格段にテニスがうまくなされた池田先生に少しでもあかりたいと夢見ている。

全日本医師テニス大会、 世界医師テニス選手権 大会について

全日本医師テニス大会

初日は硬式ダブルス、2日目は軟式ダブルスを開催のものは日本医師庭球連盟の主催であり、2-3割の方は軟式、硬式両方に出場される。数日をかけて、シングルス、ダブルスの各種の硬式のみ大会は日本医師テニス協会の主催である。どちらも各地持ち回りだが、夏から秋にかけて全く別々に企画されている。

日本医師庭球連盟

昭和38年東京で有志が集まり、日本医師軟式庭球連盟を結成、第1回の全日本医師軟式庭球大会を開催し、以後年1回大会をつづけているうちに硬式も一緒にしようとのこととなり、昭和45年の新潟での第8回大会から軟式、硬式が日を変えて開催されている。平成2年7月にアルファレスト山中湖で第28回大会が挙行された。この連盟は役員は決まっているが、会員は前回2回の大会の出席者のみとなっているので、隔年にでも出席しなければ役員にも次の大会案内状が送られて来ないのでうまく連絡がとれないことが多い。

日本医師テニス協会

昭和49年10月10日、中島定次本会会長の本会の運営紹介に刺激されて、東京で硬式ダブルスの第1回大会に際して協会が設立され、昭和55年の広島での大会からシングルスも行

われるようになり、年々盛大となって平成2年10月には3日間、岡山市で第17回大会が挙行された。年会費2,000円で名簿も発行しているが、会員数にしても不十分であり、もう少し各地区との連絡を良くして貰いたいものである。

世界医師テニス選手権大会

A. D. 1972 (昭和47年) 世界医師テニス協会が発足し第1回世界医師テニス選手権大会が開催され、年齢別にシングルス、ダブルスの男、女、ミックスがあり、国家対抗戦も7-10日かけて行われる。今年1990年の第19回大会はハンガリーで行われた。1991年は10月7日からアメリカ、フロリダ半島のタンパ、1992年は5月4日からイタリアのサンレノ、1993年は6月20日からイギリス。次いでフィンランド、オーストリア(またはギリシャ)、スウェーデン、日本の順序は世界情勢により変更もある。

日本医師テニス協会は1976年(昭和51年)世界医師テニス協会に加入し、以後1977年からは毎年30名前後が諸外国での大会に参加されている。1980年(昭和55年11月)の第9回は掛川市の妻恋ランド、1988年(昭和63年10月)の第17回は神戸市で開催された。

大会と研修会

世界大会にしても全日本大会にしてもスポーツ医学研修会が併催されると税法上や国際的な利点があるので、聴講者が少なく講師には申し訳ないが計画されることが多い。

(松田 正次)

テニス雑感

池田 数好

〈福岡市〉



心やからだの健康を持ちこたえるためには、たえずそれを使い、働かせていることが肝要だと、だれでもよく知っている。ところが、実生活のなかで、持続的にそれを実行しようとなると、ことはそれほど容易ではない。とくに、積極的な健康法を考えるなら、ただ単に気楽に快適な程度に、心やからだを働かせている、ということだけでは十分とはいえない。むしろ、時としては気力や体力の限界にいとむこと、ということは、ある程度の耐久力や苦痛にいとむということが必要である。そうすると、よくいわれているように、わかっているが続かないというのが、多くのいわゆる健康法とよばれているものと共通しているようである。

そこで、そういった事とも関連して、スポーツというものの、健康法としての意味についてふれてみよう。スポーツといっても、私の個人的な経験としてはテニスしかないの、それを主題にしたい。まずこれを書いている本人がテニス愛好者である。だから論旨は、どうせ我田引水的になりそうである。しかし読まれる人も同じテニス仲間だし、たぶん難しい反論もあるまい。むしろ、そうだそうだと賛成してもらえそうなので、書いてはなはだ気楽である。

第一に、趣味としてのテニスであっても、プレーとなると、息切れのするような気力・体力の限界を耐えざるを得ないことがある。〈なぜこうまでしてテニスを……〉と、プレー最中に自問して、われながら呆れていることもある。が、同時にまたプレーそのものが楽しみであり、快感でもあり、はげみや目標ともなるのである。こういった要素が、実は、テニスを永続させてくれたはずい分大きな理由になっているという気がする。私のようにあまり意志の強くない者にとって、たとえ健康によいからとすすめられても、興味や楽しみのない運動や生活様式を、永年継続できる自信はまるでないからである。

第二に、テニスは、実行するのに、いろんな点

で比較的に簡単なスポーツである。相手が一人いると、それでけっこう練習も試合も可能だし、多

くても4人が試合の一単位である。コートは、近づき易い場所に容易に見出せる。時間的には1～2時間あると、汗だくの運動量が得られる。いろんな制約をもった多くの職業人にとっても、僅かの余暇で実践できるというのは、永続きのためのきわめて好都合な条件であろう。

第三に、練習や試合のための経済的なコストが、一般の庶民にもなんとか手の届く範囲のものである。これも実は、永続性のためには重要な理由となるし、あるいは決定的な条件であるかもしれない。大学在学中、私も幾度となくゴルフに誘われたことがある。運動はテニスで間に合っているからと、自分なりになっとくしたつもりで、ついに手を出さなかったが、白状すると、以上第二第三の理由で、ほんとうは、手が出なかったのである。

第四に、高齢化社会の到来とともに、健康のための生涯スポーツの必要性が社会の各方面で強調されている。テニスというのは、実は、高齢になっても楽しめるという点で、この目的にも叶っている。〈実は〉、といったのは、テニスというのは激しいスポーツだから、高齢者にはむかないのでは、という質問をよく受けるし、一般にはそう思われているのが社会の通念かもしれない。ところが実際にはそうでないからである。そうでない運動生理学的な理由についても、私の考え方もあるが、長くなるので省略しよう。ひとつ事例をあげておくことにしよう。高齢者のテニスで最も有名なのは、今年で第35回を迎えた芦屋の〈グランドベテランテニス大会〉である。参加資格は満65歳以上(女子は55歳)、今年度の参加者は172組、344名であった。そのなかで80歳以上が55名(女性2名)、90歳以上2名、最高年齢は94歳であった。芦屋大会にいくと、70歳代以下というのは、どうしてまだまだ若者組で、クラブハウスの中でも、

あまり幅がきかない。芦屋大会でのこの傾向は年ごとに強まり、参加者も今年が過去最高となった。

九州医師テニス協会も、今年で第50回大会を迎えた。中島協会長はじめ関係役員の方々のご努力にたいし、テニス愛好者のひとりとして、心から

お礼とお祝を申し上げたい。ただひとつ気掛かりの点は、テニス人口の明らかな増加にもかかわらず、医師テニス大会への参加者が、近年、大会ごとに減少していることである。原因がどこにあるのか、検討が必要だと思えるのである。

再びラケットを握る日を夢見て



加藤 俊 (久留米市)

中学時代から旧制高校、大学、そして医師となっ
てからも合計50年程、続けた硬式テニスであるが、
大学を定年退職後、1年程して急な病いに倒れ、
以後数年ラケットを握らなくなっている。専ら只
今はゲームの観戦といった処、医師になってから
も大学学生硬式庭球部の部長兼総監督といった処
で、約20年間、若い学生とダブルスにシングルス
にと年齢も考えずに練習やゲームをしていた事が
今は懐しい。思い出は西日本、九州、全日本の医
科学生大会に数々の優勝を経験した事、或いは私
自身が大牟田トーナメントの準優勝、全日本医師
大会のシングルス優勝等々、懐しい思い出は多々
ある。医学を通じてよりもテニスを通じて出来た

友人の数々も、私にとっては大きな幸せであった。
200個近く集めた大小ゲームのカップも、大学定
年退官の際、思い切って処分したので、今、手許
には全日本医師大会のシングルス優勝カップ一つ
を残すのみとなっている。

再びラケットを握れるのは何時の事になるか判
らないが、ラケットだけは手許に未だ残している。
何時か再びコートにと望みを抱いている今日、此
の頃である。

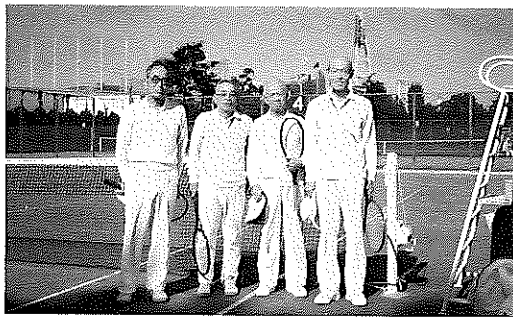
元気な時には全く気にもしていなかったが、健
康は大切だとつくづく思います。

皆さんも健康に気をつけて、何時までも何時ま
でもラケットを握って下さい。

春には再起を期す 松瀬 秀夫 (熊本市)

昭和44年ピンチヒッターで出場した第6回の久
留米大会で、当山先生と組んで思いがけずB組で
優勝したばかりに、すっかりテニスに取り憑か
れてしまい、膀胱腫瘍や肥大した前立腺は邪魔だ
と切り取って貰い、高血圧の運動療法等々、勝手に
理屈をつけ、雨が降らなきゃ毎日朝早くからラ
ケットを振りまわし、一、二年何ともないので、
もう大丈夫と勝手に決め込んで、ナイター設備の
あるコートを求め夜も精を出す始末。年に2回の
九州ドクターだけでは物足らず、全国ドクターや
芦屋のグランドベテラン、遂には明治神宮奉納大
会にまで顔を出し、ドイツやポーランドにもテニ
ス友達が出来た。

20年があっと言う間に過ぎ去り、少年の頃から
スポーツで鍛え込んで80年近い酷使にも耐えて来



昭和60年、明治神宮奉納大会の左から2人目が筆者

た鉄の心臓も流石にくたびれ果てて、遂にダウン
してしまった。主治医に一切の運動を禁止させら
れ淋しい思いで療養これ努める事3年有半、目下
微かに復活の兆が見えはじめたので、春を待って
再起を期す決意でいる。

先般来、小倉医師会テニスクラブ会長・加来数寿君より全九州医師テニス協会誌への原稿依頼があり、引き続き、同協会

長・中島定次先生より、本年の大分大会で第50回大会を迎えるので、テーマや長さは自由でよいので、より沢山の寄稿をとの要請もありました。

私は本協会の設立以来、毎回のように出場していたが、昭和57年度の大分大会までで、それからは、病気のため出場不可能になりました。ちょうど本年は第50回を大分で迎えるわけで、何か因縁めいたものを感じるので、病気の事や、近況等を御報告して、発病以来一度も会っていない中島先生はじめ、古くからの友人の方々に御挨拶したいとの思いでペンをとった次第です。

私は昭和58年2月8日午前中の診療の終わる頃、突然右半身の運動麻痺を来し、翌日九州労災病院神経内科に入院し、直ちに脳のCT検査を受け、脳梗塞の診断を受けました。以後、各種治療、引き続きリハビリテーションをと、約3ヶ月間、主治医をはじめ医療スタッフの熱心な治療を受け、はじめは全く歩けず、車椅子での生活で、右手は全く利かない状態であったものが、4月末退院の頃は散歩も出来るようになり大変喜んだ次第です。退院後1ヶ月間休養し、外来の診療をしながら、好天の時は散歩もするし、次第に外来患者の胸部X線検査や胃や胆嚢検査も可能になりました。

テニスコートにも二、三度行って、左手で壁打ちを試みてみました。勿論うまくはできなかったが、リハビリの一端にもなるし、運動の意味もあって結構面白く、暫くは続ける積りでありました。

ところが、いつ頃から膀胱症状が出て来ました。肉眼的な血尿はなかったが、頻尿と排尿痛がありました。労災病院にはまだ通院中だったので診て貰い、中枢性の膀胱障害という事だったし、市立病院でも同様の診断だったが、症状は好転せず、昭和60年10月に至り、市立病院泌尿器科で癌細胞が尿培養で確認せられるに到りました。私は直ちに手術を希望し、なるべく早期実施を申し出たのであります。部屋の都合や何やかやで、10月末某日入院、諸検査の後、約8時間を要したが、全身麻酔の下に手術は行われました。以後、6ヶ月間全く絶対安静、かなりの熱も出たようですが、病

私の闘病と 近況 竹末 庸夫



〈北九州市・小倉〉

院側の至れり尽くせりの治療や看護により、次第に恢復、昭和61年3月には、またリハビリテーション、歩行その他の訓練を

受けるに到りました。しかし、折角前の病気後、体力、気力がかなり恢復していたのがすっかり落ち込み、体重も50kg（病気前は62kg）前後に減少していました。今にして思えば、その頃見舞に来てくれた友人達は、私の恢復は恐らくかなり困難だろうと思ったことでしょう。しかし、私はそんな弱気は全く持っていなかった。一日も早い恢復のみを考え、毎日3階病棟の窓から外を眺め、病院外のアパートを出入りする人々の姿を眺めて、早くあなりたいと思いつづけていました。体重はとも角、気力は充分に恢復したと思った昭和61年3月25日退院を許可して貰い、半年振りに我が家に帰りました。

退院以来、今後の方針について種々考え、また家族とも相談した結果、終戦以来の長い開業生活に終止符をうち、大学以外には経験もないが、病院勤務をしようと決意しました。その理由は、前々から同門の東泰宏君から、彼の経営している東和病院への協力依頼の話があり、私はこれを快諾したからです。彼は同門の一人であると同時に長いテニス友達でもありましたので、私は彼の事業の成功を祈ると同時に私自身も私の余力を少しでも地域医療に挺身したいと思った次第です。

昭和61年6月1日からの出勤ですから、もう4年半を少し過ぎました。

当病院は現在医療法人敬天会と称し、5階建一般病床204床です。私は専ら4階の入院患者で主として慢性の老人患者を担当。週4日、車での送り迎えで楽させて貰っています。既に80歳に近い老躯で余り役にも立つまいと思うが、微力をつくして頑張っている積りです。

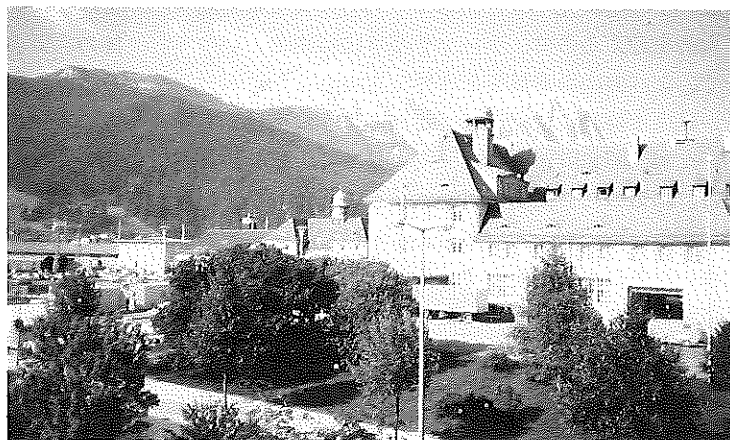
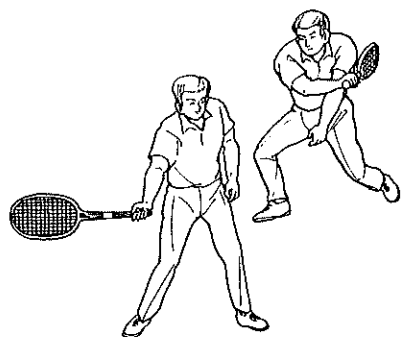
残りの2日は北九州市役所、玉屋等の健康相談へ出向いています。

この外、医師会からの連絡による各種講演会は自分で選択させて貰って勉強しながら驚馬に鞭うっている次第です。体の方はまずまずという状態ですから御安心下さい。

終わりに、中島先生はじめ会員諸兄の御健康と全九州医師テニス協会の益々の発展を祈ります。

九州勢、世界の檣舞台で大活躍

兄弟ペアで見事優勝 当山 堅一〈那覇市〉



医学の国、ビールの国、第二次

ホテルの窓から（7月だが山々は万年雪に輝いている）

大戦の盟邦ドイツ、吾々日本の医者、殊に年配の医者にとってドイツは先輩の国であり、明治、大正、昭和にかけて沢山の留学生を送った国である。

第10回世界医師テニス大会がこのドイツで開催される事を知ったのは昭和55年静岡の「妻恋」で開催された第9回大会の時だった。

妻恋大会は参加料を出しながら急性前立腺炎で発熱し不参加に終わってしまった。

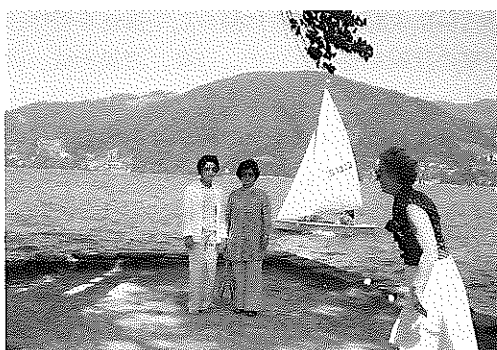
熊本の弟、堅三は急遽東北の先生と組んで出場し2回戦で敗退した。

西ドイツは恐らく今後もいく事はないだろうと思い、観光もかねて是非行こうと決心し、妻も同行する事にした。亭主をテニスしながら突然の心不全で失気が減入っていた妹ゆき子も弟堅三が旅費一切を出して連れていく事にした。また、ゆき子の友人、山田さんも同行し総勢4名になった。

私達は那覇から、弟は熊本から飛んで大阪で合流し、九州ツアーとして総勢32名となった。また関東ツアーも同数で日本からの選手団は家族を含めて60名余の大世帯になった。

ドイツ近隣の国からイギリス、イタリア、フィンランド、デンマーク、ノルウェー、オーストリア、スイス、フランス、スウェーデン、或いはインド、遠くアメリカ、ナイジェリアと、沢山の国々から多数の医師と家族が参集した。

肌の色も白赤黄黒とまるで人種の展覧会の観を



西ドイツの「山中湖」

呈していた。しかし、ソビエトや東ドイツからの参加はなかったような記憶だが、弟の話では東ドイツから1人、古いラケットを持った医者がいたと言っていた。東アジアからは日本の他は参加がなかった。

7月3日午後9時、成田国際空港から満席の日航ジャンボ機でアリューシャン列島ぞいに一路アラスカのアンカレッジ空港へ。

機内の狭い座席に長時間座っていると、次第に足腰が痛くなる。備えつけのレシーバーを耳にクラシック音楽、流行歌、はては漫才まで聞いてみるが、これにもあきて、たびたびベルトをはずして座席間をまるで檻の中の虎か熊のように往來する。

400人余の乗客の殆んどが日本人の観光客のようだ。日本人の観光客或いは海外旅行者が多くなったのは円高ドル安を背景の通貨情勢のためだと思

われる。

旅客はことに若い男女が多い。我々の場合でも12日間の旅費は飛行機、ホテル代、観光バス代を含めて50万円足らずだ。

成田を午後9時に出発したが夜明けの早いアンカレッジは既に朝。連山雪に覆われた山々はとても真夏7月の姿とは思えない。クーラーなしではとても眠ることができない沖縄からわずか10数時間で氷の張るエスキモー部落の見えるアンカレッジだ。

その昔、帝政ロシアからアメリカが買った一番安い買物と称されるアラスカ。2、3日前、日本人の新婚夫妻2組がセスナ機で山に激突して死亡した氷の山々が近くにそびえている。

飛行場近くには空港勤務者の住宅と小さなエスキモー規格住宅が碁盤の目のように並んでいる。しかし、そのほかにはなにもない全く荒涼たるたざまいだ。大阪や東京のようなコンクリート建の家並みの日本の都市から来ると「遙けくも来つものかな」の感一しおで、海中から白熊が現れるのではないかと思われる位寒々としている。

空港待合室には欧州の香水やウィスキー、アラスカの毛皮製品、それに日本のカメラ、時計が所狭しとならんでいる。売子の半数は日本人の商社婦人だが、言葉は外人ずれのした、ぞんざいな日本語だ。値段は矢張り高目だった。

1時間半のガソリン補給後、北極圏1万3千メートル、零下40度の上空を一路ロンドン向け出発する。途中アイスランド、グリーンランドを横切る。その間約10時間、狭い座席はいくら背のびしても首すじから腰にかけて凝って痛い。足は棒のようになり太くなった感じだ。既に20時間近くもたつ。座るだけで横になれないのはまったく苦しいものだ。外は夜が来ているはずなのに北極上空は太陽がキラキラとまぶしい。機内は飛行機の窓を閉めて座ったまま仮眠している人ばかりだった。

ようやく「禁煙」「ベルト着用」のサインが出た。夜が来ないのに朝が来て午前7時、音にきくロンドン空港についた。

午前中、貸切りバスに乗ってロンドン市内を見物する。ロンドンは物価が安いと聞いたので皆買物を希望し午前9時開店したばかりのロンドン三越に入り買物を楽しむ。私は1枚1万3千円のネックチーフ3枚計3万9千円也を娘からもらった

ルで支払う。あまり安くない。後になって奥の方に1枚3千円のものもあったと聞いたが後の祭り。

早朝のロンドン市は新聞紙や紙屑が路上に散らばって大英帝国のイメージをいちじるしく落している。

壁によりかかる浮浪者らしい姿も見え、経済破綻の老大国の姿があわれに見えた。

バスの窓からバッキンガム宮殿の赤帽子の衛兵をカメラに納め、皇太子の結婚式の行われる寺院を横目に眺める。ロンドン塔、ロンドン橋、黒塗りの丈の高いタクシー、2階建の市街バス、チャールルの銅像等をカメラに収めて午後の空港に急ぐ。

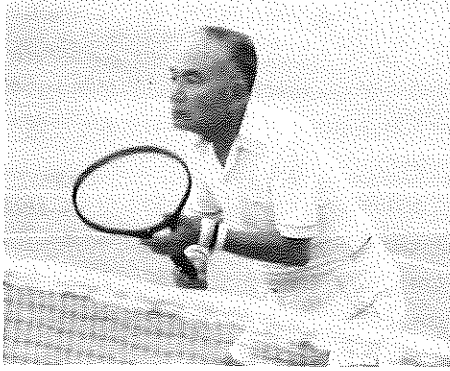
日本航空に代って今度はルフトハンザドイツ航空機でフランクフルトだ。

機内に入るとアナウンスはない。「禁煙」「ベルトを締め」の電光サインがドイツ語と英語でピカピカするだけですぐ飛び立つ。

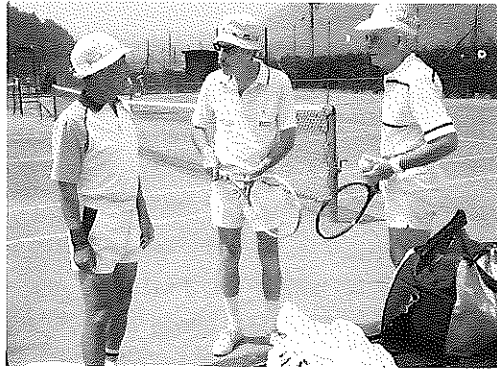
スチュワーデスが乗客1人1人丁寧にベルトを点検して飛びたつ日本の飛行機に比べ誠にあっけない。離陸時の速度も座席に体が押しつけられる位ぶっ飛ばす。戦争中勇名をはせたハインケル機を思い出す。しゃにむに雲上を飛ばす感じだ。機内はスチュワーデス1名、口ひげの生えたパーサーが車を押してコーヒー、ジュース、缶ビールをサービスして廻っている。西ドイツに入ってびっくりしたのはホテル、レストラン、売店とどこでも極端に従業員が少ない事だ。727位の飛行機でスチュワーデスただ1人だ。日本機なら少なくとも5名ぐらいはいるだろう。フランクフルト空港に着く15分前にドイツ青年が1人缶ビールを更に1本追加注文した。ところがパーサーは「すぐ着陸するから止めなさい」と断った。また断られた青年も素直にうなずいた。あっさりしたものだ。「ベルトを締め」の電光を見た後、機はフランクフルト飛行場に滑りおりたが、我々乗客が降りたとたんに自動小銃を腕に兵士3名がどかどかと乗り込んで来た。

西ドイツの周辺は北からデンマーク、オランダ、ベルギー、フランス、スイス、オーストリア、チェコスロバキア、東ドイツと国境を接している。いっどんな形で不逞分子が潜入するか知れない。自動小銃を小脇に抱える兵士の姿は平和に馴れた我々の目に異様に映った。

「自衛手段、誰に遠慮が要るものか」といった



▲いざ、戦わん!!



「入った」「入らん」「何をぬかす」「What say you」じゃけんカにならぬ。けんカはやっばり日本語じゃなきや!

風情だ。50年前まで日本刀を腰にしていた私だが不気味さは覆うべくもない。妹のゆき子は友人の山田さんに「我々を守ってくれているのよね」と弁護風に話す。やっぱり彼女等もあまり気持はよくないらしい。「武器よさらば」の世界はいつの日か。

空港からバスで目的地ガルミッシュ・パルテンキルフェン市へ。途中は牧場、牧場、牧場ばかりで畑一つ見えない。緑の牧場と枯草納屋の郊外を遠望近望しながら夕方に目的地の10面アンツーカーコートの特ニスクラブに到着し登録を済ませた。ホテルは駅前の82室シャワー付のケーニヒホフホテル。

早速風呂に入り食堂へ。別のテーブルでは同期生らしい40年輩の女性20人位がビールとワインでほろ酔い加減だ。歌をうたったりダンスをしてわいわいやっている。驚いた事に彼女等の上腕は例外なく私の大腿ぐらいある。おしりとおっぱいはポインと形容するほどスマートではない。じゃがいもとソーセージとビールは例外なくドイツ婦人を肥満体になっている。臀部は馬を、乳房は乳牛を連想するほど偉大である。同行の日本婦人全員がほっそりと欠食児に見える。夜は久々にベッドで足腰を伸ばし、ぐっすり休む事が出来た。

ガルミッシュ・パルテンキルフェン市は二市が合併して出来た市である。ミュンヘンより更に南オーストリア国境に近くバイエルンやアルプスの山あいにある静かな市で人口は約3万。1936年冬期オリンピックが開催された土地で冬はスキー、夏は登山の町として知られている。

緯度は北海道と同じで、朝は5時半に夜があけ、夜は9時半にしか日は暮れない。沖縄より2時間も昼が長い。街の所々に民宿の看板が目につく。ドイツ人は食事を減らしてでも立派な家を作ると

言われる位で、ほとんどの家が二階建てで庭が広い。窓や庭に色とりどりの草花が鉢や箱に植えてあり、見事である。

到着翌日から我々は試合開始。御婦人は観光へ。試合はシングルから。1試合で1時間以上も走り廻らねばならないので私は2回戦を放棄する。弟堅三は3回戦以後棄権してダブルスに全力投球する事にした。

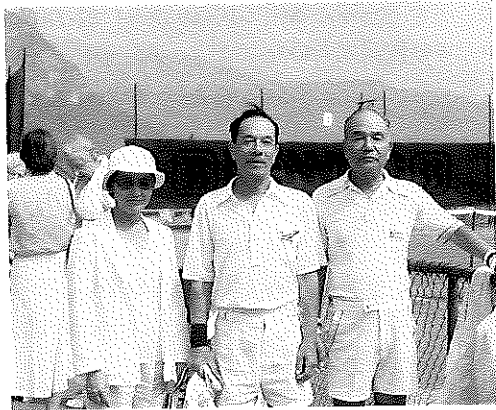
ダブルスは第1試合で相手が棄権。不戦勝となる。第2試合は去年優勝した第1シード、アメリカのヤコブス・ベリーマン組とだ。

試合は最初からシーソーゲームを繰り返して遂に6対6のタイブレークとなる。次は7点の取り勝負だ。大接戦、死闘を繰り返し、やっと私達が7対5で押しきった。第2セットは相手が気落ちしたのか6対2で簡単にとる。これで優勝の目安が7割位ついた。

その夜、ハヴァリア民族音楽の夕があり皆出掛けたが、私はホテルで妻と二人だけの夕食を済ませ風呂に入り妻に足と腰をマッサージしてもらい明日にそなえた。次の朝、コートで第3試合のアメリカチームを待っていた。しかし、相手の吾々に何の通知もなく観光に出掛けたと称し試合は明日に持ち越さねばならない。日本人には考えられない無神経さか、或いは馬鹿にしての事だったかも知れない。腹がたつやら情けないやらでブツブツ言いながらも夕食は試合に勝ち残った10名で昼間見つけておいたチャイナレストランに米の飯を食いに出掛けた。

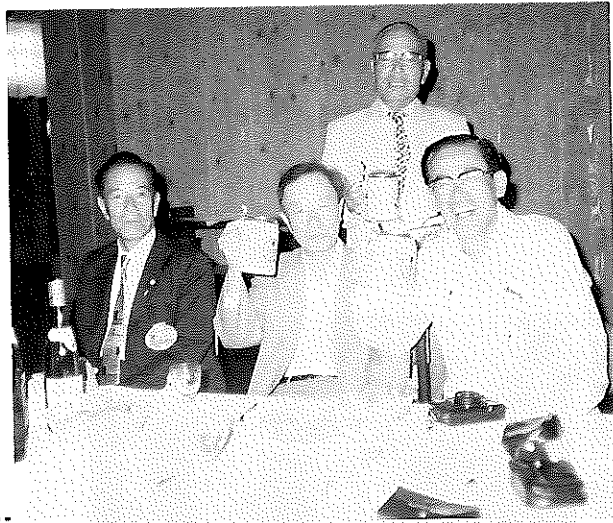
焼飯は塩からかったが1週間ぶりの米飯はイタリア産のパサパサ米でも実にうまかった。ビール支那酒と充分飲んで、1人約3,000円(30マルク)で安かった。

翌11日、吾々をすっぱかした米国のドーウェル、



▲やった優勝！ 後方は敗れたドイツチーム

優勝カップで祝杯!! ▶



バーリン組は案外手剛く6対1、6対4で勝ったものの、3回も「出た」「入った」でモンクをつけられ全く不愉快だった。高い金を払って遠くドイツくんだりまで来ておらねば「手前等とはプレーをしない」と叫んでラケットをたたきつけて帰りたい衝動に駆られた。

試合は全部お互いで審判するオーナージャッジ(名誉ある審判)だが勝ちたい気持は皆一つで「入った」「出た」で度々もめて結局「ノーカウント」となる。

さすがに日本人は誰も文句をつけないがアメリカ人もドイツ人も再々不服を言う。

アメリカのマッケンローなどプロテニスの連中が審判に比べてかかる風景をテレビで見るが全く紳士らしくない。

準決勝で2回も文句をつけられてやり直しをしたが、3回目はボール一個分位出た相手のスマッシュを私がアウトと叫んだトタン「今のは入ったよ」と遠くから文句を言う。私は不愉快な気持ちを押え球の跡を指し「此処だ、見てごらん」とどなったが見ようもしない。

観戦の有馬先生等が「アウト」「アウト」と支援してくれたが「お前達は日本人同志ではないか、信用出来ない」と称す。

折りよく私の後方でテニスクラブのおばさんが「今のは確かに出たと私は見た。私はドイツ人でエコヒキしない」と1分間位英語で私達の弁護をしてくれた。

婦人に弱いアメリカさん、とうとう黙ってしまっ

た。前の日に深水先生が「ワンポイント毎に“ワンスリーですね”或いは“ジュースですね”とコールし念を押さんと1ポイントだけでなくゲームまでパクられますよ」と教えてくれたが、まさかと思った事が事実となって初めて外国人との試合をするむずかしさを教えられた。

試合終了後、私の胸の「ジャパン」の記章をはずし「ダンケ・シェーン」と通用する唯一のドイツ語でこのおばさんにあげたら喜んで全日程終了まで誇らしげに胸に飾っていた。変なところで日独同盟で米軍に当たった訳だ。

外国での試合に馴れないせいか1日1ないし2試合のマッチだが疲れがひどい。皆と一緒に観光に行かず私の足腰を揉むために1人残ってくれた妻は夕食後お湯につかった足腰を1時間以上も揉みほぐしてくれた。

鹿兒島から一緒に来られる予定だった有馬先生の奥様は足の手術で同伴出来ず弟堅三と同室だったが盛んに羨ましがり残念がっておられたと言う。

12日(土) 試合最終日決勝戦はドイツチームとだ。日本の前衛はうるさくポーチすると聞いていたのだろう。牽制の意味で最初の一球をアタックして来た。「待っていました」とばかりバシッと決めたらもう前衛の私をついて来なくなった。後はポーチ、誘いと当方のベース。後衛の弟堅三も当たりに当たって6対0、6対2と簡単に勝ってしまった。決勝戦だけドイツの審判がついてくれ、当方のアウトラインぎりぎりのボールまでセーフと公平に審判してくれ、文句も出ず、気持よく試



最後の晩餐 オテモヤンの合唱



秋武夫妻の「民間外交」

合が出来た。

終了するや有馬先生の提唱でクラブハウスに入って板家先生、有馬先生と4名で祝盃。「遥くも西ドイツまで来た甲斐があった」と喜んだ。

午後50歳台のクラスで有馬・板家組が決勝まで進出したが惜しくも準優勝に終わった。

夜のお別れパーティー及び表彰式は若い深水先生夫妻と家内と選手4名計7名だけが出席。深水夫人は成人式に作ったと言う派手な着物で家内が手伝って髪を結び着付けも手伝って出席、各国人の注目を浴びていた。日本の晴着は矢張り目立って美しい。

翌13日早朝から先行した仲間を汽車で追跡。ガルミッシュからミュンヘンを経てハイデルベルグまで急行で6時間、9日に吾々と別れてインスブルグ、ザルツブルグ、リンツ、ウィーン、ミュンヘン、ローテンブルグと観光に出掛け、ハイデルベルグ駅前を待っていた本隊と午後2時に合流。優勝は既に電話連絡で報らせてあったので、貸切りバスの前部の席を空けて拍手で迎えてくれた。

あまりにあっけなく決勝戦を勝ったので優勝した実感が湧かなかつたが沢山の仲間の拍手で迎えられて初めて「勝った」実感が湧いて涙が出そうな程うれしかった。

午後はハイデルベルグ城に登ったが足が痛く傾斜30度のケーブルカーに乗ったら皆にはぐれてしまった。夜は最後の分散会を居酒屋を借りきって

の宴会。熊本のオテモヤン、鹿児島のおハラ節、沖縄のアサドー屋と各県の民謡が次々に飛び出す。驚いたのは秋武夫人のソプラノ。素晴らしい美声にしばしうっとり。お蔭でアサドー屋の文句を忘れてしまった。

午後の9時半になってもなおテニスの出来る程明るい街を神風タクシーより早いタクシーに乗ってホテルへ。

西ドイツのパンは噛めば味はあるが堅い。野菜や果実はまずいがハム、ソーセージはうまかった。北海道同様冷房装置はなく暖房だけ。

沖縄は海が綺麗だが、ドイツは山が素晴らしかった。楽聖シュトラウスは40年間ガルミッシュに住み美しい山々を見ながら「アルプス交響曲」の楽想を練ったと言う。

翌早朝、貸切りバスでフランクフルト空港へ。途中は全国に張りめぐらされたヒトラー軍用三線道路を制限速度なしで突っ走る。速度の速いのが分離帯に近く、遅いのが外側。自分の能力に応じて外・中・内側を走ればよい。「ドライバーはオトナ」「危険は自分の責任において」と言う訳だ。殆んど車が百キロ以上飛ばしている。皮肉な事に、この道路がヒトラーの残した唯一の財産で戦後のドイツ復興に貢献していると言う。

また、観光バスは殆んど車体の下側に荷物入れがありトランクの20個や30個は楽に入れられる。(最近日本の観光バスもそうであるが) 空港到着後最後の買物。ゾーリンゲンの包丁を買いたかったが、機内の手続きが面倒なので爪切り鋏だけにした。ルフトハンザ機は夜のないまま北極圏を逆にアンカレッジに飛ぶ。席は30%位空席だったので後の席の3人分を横になって寝る。

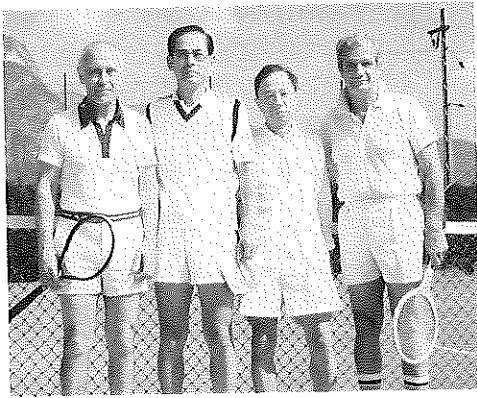
夜が来ないのに14日(火)になって成田着。大阪で九州勢と分れ、吾々4人だけ沖縄へ。沖縄上空、2日振りやと夜が来て暑かった。

孫の真紀子に優勝祝賀の花束を贈られ、2週間ぶりの経塚の吾が家に入ったのが午後の9時半。日はとっぷり暮れていた。

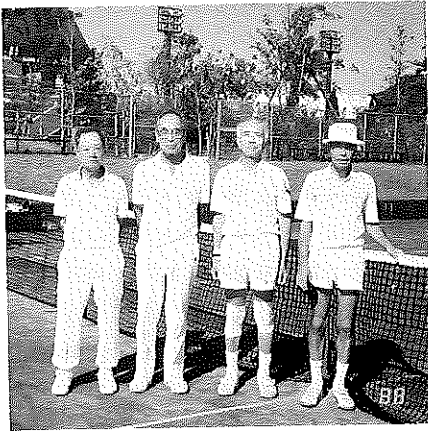


世界医師テニス大会の思い出

イギリス、 神戸両大会で優勝



ガルミッシュで有馬・板家組とミケリ・サギニ組



神戸で決勝戦は池田・板家組VS井島・林組

板家 茂樹 (北九州市・小倉)

昭和55年(1980)から63年(1988)までの間に、私は4回、世界医師テニス大会に参加しました。55年11月、静岡県妻恋で、第9回大会が開かれました。以前から一度外国の選手とゲームをやってみたくて思っていましたので、福岡の林先生と組んで参加しました。試合の期間は1週間ということでしたが、とりあえず2、3日の予定で出かけたのですが、予定通りになりました。2回戦で、シュランケンミュラー(独)ソラッコ(伊)の組を破りましたが、3回戦で、門司の秋武先生と中島先生の組に負けました。外国の選手との試合は、大変楽しいものでした。

この試合では深水良先生と緒方うらさんの組が混合ダブルスで優勝しました。



ボーンマスでベリイマン・ヤコブ組を破り優勝

昭和56年7月、西ドイツのガルミッシュで、第10回大会が開かれました。この時は鹿児島の有馬先生と参加しました。九州で最強のプレイヤーの有馬先生の足をひっぱるのではないかと、10日以上休診、言葉、入れ歯の問題など色々気がかりになりましたが、思いきって参加しました。ガルミッシュに着いてコートに行ってみると、有馬・板家組は1回戦で、第1シードのミケリ・サギニ組(伊)にあたっております。ミケリは前年、日本で55歳以上のシングルスで優勝しており、ミケリ・サギニ組は前々年の大会で、55歳以上のダブルスの優勝組でした。有馬先生は「今年は観光コース行きじゃ」という話でしたが、思いがけず6-4、6-0で勝ちました。結局55歳以上のダブルスで準優勝のカップをもらいました。

当山先生御兄弟の組は、お二人の息の合った絶妙のコンビネーションで、圧倒的な強さで勝ち進んで、65歳以上のダブルスで優勝されました。

日本への帰りの飛行機の中で、広島のエ先生から、翌年のイギリスの大会にさそわれました。

昭和57年6月、第11回大会が、イギリスのボーンマスで開かれました。九州からの参加者はありませんでした。林・板家組は60歳以上のダブルスで、ベリイマン・ヤコブ組(米)を破って優勝。55歳以上のダブルスで準優勝でした。全く思いがけぬ幸運でした。

広島の小河先生は、70歳以上のシングルスで優勝されました。

帰りにパリによって、凱旋門の見える店でビールを飲み、マロニエの並木道を歩いた時のことは

思い出に残ります。

昭和58年10月から、狭心症発作が起こるようになりました。1年余り全くテニスを休みましたが、その後、再び徐々にテニスをはじめました。

昭和63年10月、第17回大会が神戸で開かれました。全九州医師テニス大会の寿組（70歳以上）で福岡の池田先生と組んでいただく機会がありました。世界大会では70歳以上のダブルスと、65歳以

上のダブルスに組んでいただきました。池田先生は70歳以上のシングルスにも参加されました。池田・板家組は70歳以上のダブルスで優勝しました。この時の準優勝戦はファイナルセットにもつれこんで苦戦しましたが、池田先生のタイミングのよい作戦の変更と、見事なスマッシュの連続ポイントで逆転しました。今も忘れることの出来ない一戦です。

ボスタットからブダペストまで

世界医師テニス大会の思い出 井島 良雄 〈福岡市〉

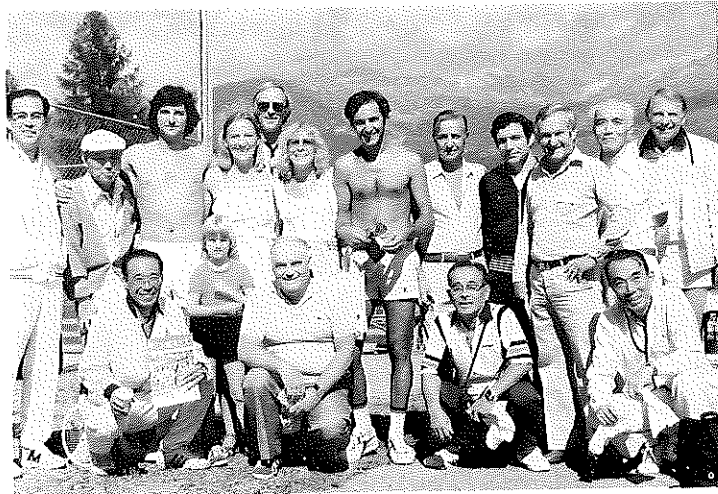
中島定次先輩が昭和41年に提唱されて出来た九州医師テニス協会が毎年2回ずつ大会を開いて50回を迎えた。感慨無量です。皆様と共に喜びたいと存じます。九州各県で行われたが、桜島の噴煙を見上げ、その降灰に悩まされながらやった鹿児島大会、雨の中を滑ったり転んだりして、最後まで闘った飯塚大会等々、思い出深いものばかりである。古い記録や写真を見ていると、今はなき人々（疋田、鈴木、松元、田代、深水、時政、林、永沼氏等）の各位の偉が偲ばれてなりません。御冥福を切に祈ります。また現在御病氣療養中（中島、竹末、太田、松瀬、深松、増田、当山、吉田氏等）の皆さんが一日も早く治って、再びコート上に元気な姿をお見せ頂く事を切に祈っています。

中島先輩が作られたこの協会が基礎となり、全日本医師テニス協会が生まれ、同じ頃出来た世界医師テニス協会にも加入し、テニスを通じて全国及び全世界の医師と交流を深める事が出来たのは誠に嬉しい限りであります。そこでこの世界大会参加の回数だけは（九州で）私が一番多いので各大会の思い出を書いて見ます。

最初に日本から参加したのは、第7回のスウェーデン大会（1978年）であった。中島会長から「こんな会があるので出ようや」と誘われて門司の吉田君等と、このこのこついで行った。コペンハーゲンから船でスウェーデンに渡りボスタットと言う所に行くのだが、添乗員もなしで呑気に座っていると、車掌が来て「お前達はどこに行くか」と聞いているらしいので、「ボスタット」と答えると列車が違うとの事、慌てて別の列車に乗り換えて

無事目的地に着く。駅長一人の田舎駅で、駅前に店もタクシーもない。着いたばかりで小銭もなく途方に暮れていると、一緒に降りた白人の客が、駅前の電話ボックスからタクシーを呼んで呉れたのでやっと約束のホテル（民宿）に着く事が出来た。後に判った事だがスウェーデンでは田舎ばかりではなく、ストックホルムのような大都会でも、タクシー会社直通のボックスが町角にポツンと立っているのであった。コートに行き手続きすると、現地の会長がたった一人で受付から記念品渡しまでやっていて至極のんびりしたものである。メインコートに並んだ各国の旗の中に一際目立つ日章旗を見付けて、とても嬉しかった。まとまって10面位のクレイコートがあって、大部分はそこで行われたが、個人の別荘（ボスタットは南方の海岸にあつて気候の良い別荘地帯である）のコートをいくつか借り上げて使っていた。私のシングルス一回戦はそんな個人のコートでスウェーデンの人と二人切りで試合をした。世界大会と言うより親戚の別荘にでも遊びに行つて、従兄弟同志で遊んでいると言つた塩梅で、至極のんびりしたものであつた。セットオールになって雨で中断、別荘の奥さんがケーキや果物など御馳走して呉れて、雨後再開、やっと勝つたのは楽しい思い出である。

十年後（1987年）行ったスウェーデンも同じボスタットであつたが、メインのコート群は同じであつたけれど、もう一ヶ所十数面の新しいコートが用意されていて、前回のような個人のそれはなかつた。ここでの一つの思い出は、三人の白人が練習しているのを私が一人ぼんやり見ていると、



▲1979年、スイス（フリムス）大会で各国選手と

◀1990年、ハンガリー（ブダペスト大会）で思わぬ最高年齢賞

一緒にやらないかと誘って呉れたので、一セットやった。後で聞いたら三人はスウェーデン、ノルウェー、フィンランド人で四人共国籍は違うのである。皆英語を使って誠になごやかにゲームを楽しんだのは実に愉快であった。

スイス（1979年）では、箱庭のような美しい田園風景の中にあるホテルに全員泊まって、その敷地内にある十数面のコートで試合があった。コートまで林の中を歩いて2～3分しかかからず気持ちの良い大会であった。スイスのスピッツァー会長とシングルスとの対戦をして敗れた有馬哲三君が「わしの年齢までもう9年あるから頑張り給え」と言われてガックリしたのが印象に残っている。帰りに中島会長その他とチェルマットに廻り、世界の名峯マッターホルンの景観を大いに楽しんだ。

ドイツ（1981年）は南の方で、いつか冬季オリンピックが行われたガルミッシュ・パルテンキルヘンであった。ドイツ人だから几帳面だろうと期待していたが、それ程でもなく、ゲームの進行など例によってルーズなものであった。帰りにローテンブルグ一泊を含むロマンス街道を北進したが、各都市共に現代離れしていて、まるで中世の時代に迷い込んだようであった。曾遊の地アルトハイデルベルグの哲学者の道を散策したり、5万ガロン入りのワインの大樽に驚いたりしたものである。

アメリカ（1985年）は西海岸のサンジェゴであった。太平洋艦隊の基地で軍艦が沢山停泊していたが、クジラの遊泳が陸から見られると言う綺麗な

海岸である。アメリカらしく車がないと移動出来ない。毎日通うコートに行くにも動物園に行くにもタクシーである。コートと美術館が同じ公園内にあると言うので歩いて行けるかと思ったら、どうしてどうして車で7～8分はかかる。ゴリラで有名な動物園内のバスで知り合った日本人研究者（魚類関係）の一家と親しくなって、自宅やレストランに招待されたり、町中を案内して貰いながら向こうの生活の模様を聞いたり出来たのは楽しい思い出である。帰りにサンフランシスコに陶芸の友人アンダーソン君（数年前日本各地の窯場を廻り私の家にも一週間位滞在して、小石原や有田、唐津等を案内した事がある）を訪ね、新婦や赤ちゃんとも会って旧交を温める事が出来た。ぶら下がり乗るので有名なケーブル電車に乗ったり、金門橋などシスコ市内を案内して貰ったのも思い出である。

今年（1990年）は病後でどうしようかと迷ったが、思い切ってハンガリーのブダペスト大会に参加した。九州から女医の久能さんとたった二人だったのは淋しかった。東欧と言っても、全く西歐的で、出入国なども何の抵抗もなかった。オーストリアハンガリー帝国と言う時代もあったと言うこの国は、中世の面影も残った美しい町である。広いドナウの流れを前景にして、ブダの丘（ゲレルトの丘）には王宮やマーチャーシ教会、漁夫の岩など建ち並び、美しい景観を示している。対岸のベスト地区は商業地として賑い、国会議事堂、英

雄広場、美術館等々見どころが多い。川の中に長さ2500m、幅500mの中洲、マルギット島があって全部が公園になっている。一抱えもある大木が鬱蒼と繁っていて素晴らしい。民家はなく、大野外劇場、バラ園、教会、温泉付きのホテル、それにプールその他のスポーツ施設がある。テニスコートが十数面あって、毎日ここに通った。

私は成績不良であったが、久能さんが大いに頑張った。レディスシングルスで決勝戦に臨み、1セットは6-2で落したが、2セット目タイブレイクに持ち込みながら6-7で惜しくも敗れたのは返す返すも残念であった。しかし同じ日に混合ダブルス（関西の宮村氏と組む）準々決勝フルセットの末勝ち、続いて準決勝をまたフルセットとなり惜しくも敗れたが、真剣勝負を8セットぶっ続けで頑張ったのは見事であった。大いに誉めてあげて下さい。

最後の夜、サヨナラパーティーの表彰式で、イの一番にイジマヨシオと呼ばれたのにはびっくりした。試合は一勝もしていないのに何でと思ひながら、のこのこと出て行ったら、最高年齢賞として私の名前入りのワイン3本をリボンをつけて贈

られた。二度びっくりするやら嬉しいやら。

大会本部が用意した市内観光や、ドナウベント小旅行（ドナウ河を遡りチェコとの国境までバスツアー、帰途セビア人の開いた刺繍が特産の奇妙な町など見学）も結構楽しかった。ハンガリーは農業国とは聞いていたが、流石に野菜類（キャベツ、レタス、トマト、ポテト、豆類、リンゴ、メロン等々）がとてもおいしかった。特産のパブリカは真赤なスープ（ハラースレー）に代表されるが、私の口には合わなかった。辛い辛いと思ひ込んでいたけど大した事はなかった。

帰りに十名でミラノ、コモ、ベニスと北イタリアの旅を楽しんで2週間が終わった。

日頃の忙しい診療生活から解放されて海外に出て、各国のドクターや現地の人々と交流し、珍しい風物を見たり、歴史に思いを馳せ、異なった宗教や諸々の文化に接し、独特の食べ物を食べて実に貴重な経験であると共に、これからの人生に対する良い充電になると思う。是非皆様もこの大会に奮って参加される事をお薦め致します。来年はアメリカ（マイアミ）その次はイタリアだそうです。

効能追加 蕁麻疹、湿疹・皮膚炎、アトピー性皮膚炎、皮膚癢痒症、痒疹

アレルギーの三大疾患に
喘息、アレルギー性鼻炎、アレルギー性皮膚炎

アレルギー性疾患治療剤
アゼブチン[®]
錠0.5mg・錠1mg・顆粒0.2%
薬価基準収載
塩酸アゼラスチン製剤

アゼブチンは、ロイコトリエン、ヒスタミンの遊離抑制および直接拮抗作用を有し、アレルギー性疾患の症状・所見を効果的に改善する。

■効能・効果■

気管支喘息、アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、湿疹・皮膚炎、アトピー性皮膚炎、皮膚癢痒症、痒疹

■用法・用量■

1. 気管支喘息

通常、塩酸アゼラスチンとして1回2mgを、朝食後及び就寝前の1日2回経口投与する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

2. アレルギー性鼻炎及び蕁麻疹、湿疹・皮膚炎、アトピー性皮膚炎、皮膚癢痒症、痒疹

通常、塩酸アゼラスチンとして1回1mgを、朝食後及び就寝前の1日2回経口投与する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

■使用上の注意(抜粋)■

(1) 一般的注意

1) 眠気を催すことがあるので、本剤投与中の患者には、自動車の運転等の危険を伴う機械の操作には従事させないよう十分注意すること。

2) 長期ステロイド療法を受けている患者で、本剤投与によりステロイド減量をはかる場合は十分な管理下で徐々に行うこと。

●その他の使用上の注意については添付文書をご参照ください。

●資料請求は、弊社医薬事業部アゼブチン係まで。

Eisai エーサイ株式会社
東京都文京区小石川4-6-10

J-12 9209

仕事するにも旅行するにもスポーツするにも、 リッキーのコンタクトレンズは瞳といっしょ。

スポーツもOK、瞳に信頼されています

SOPHINA
Ricky Aqualess Soft
ソフィーナ

すれ、はすれの心配がなく、シャープな視界で、スポーツ大好き人間にも愛されています。

薄くて酸素透過量が豊富、瞳に愛されています

Ricky Soft-S1

薄形で酸素透過量がアップ、初めての方でも瞳に優しい装着感が得られると好評です。

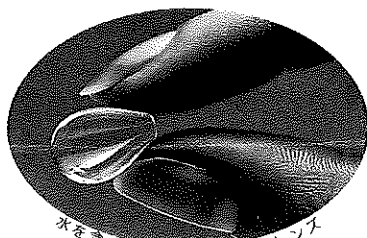
煮沸消毒の不要な 酸素透過性ソフトレンズ

◎瞳に優しいデザインです。

リッキーのソフトコンタクトレンズは、薄くてやさしい。うす、涙とよくなじむので、瞳にやさしくフィットして、装着時の異物感がほとんどありません。初めての方でも、最初から瞳に優しい装着感が得られるソフトコンタクトレンズです。

◎激しいアクションもOKです。

リッキーのソフトコンタクトレンズは、ハードレンズと違って大きなサイズなので、くろめ(角膜)全体に優しくフィットします。だから、瞳の動きに、しっかり付いて動きます。このため激しい変化にもOK、そのうえシャープな視界で、スポーツにはうってつけのレンズです。



◎海外旅行にも気軽です。

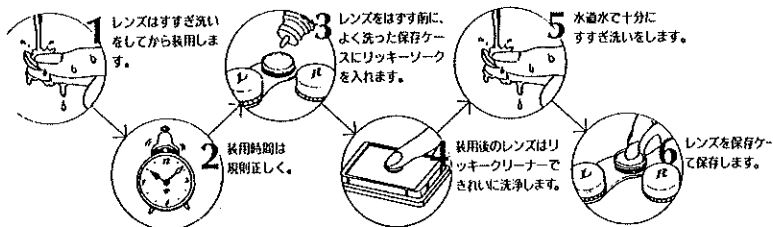
リッキーのソフトコンタクトレンズは、煮沸消毒の必要がない。うす、レンズケアには専用のトラベルケアセットがあるので、どこへも気軽にOK。旅行をするときなど、煮沸消毒が必要だと、意外にたいへんな印象を抱いてしまうことがありますが、リッキーのソフトコンタクトレンズなら気楽です。

◎すぐれた酸素透過性です。

瞳がいつも輝いているのは、空気中の酸素を溶かし込んだ涙が、眼の健康を守っているからです。リッキーのソフトコンタクトレンズは、素材自体が眼に大切な酸素をよく通す、すぐれた特性をもった、瞳に優しい酸素透過性ソフトコンタクトレンズです。

ルールを守って、瞳イキイキ// (毎日のご使用サイクル)

- レンズを取り扱う前に、手(指先)をよく洗ってください。
- 洗浄にはリッキークリーナー(洗浄液)を使います。
- 保存には、リッキーソーク(保存液)を使います。



PC 株式会社 リッキーコンタクトレンズ

本社 〒160 東京都新宿区四谷3-7 ☎03(3357)4611代	朝日生命山台本町ビル8F ☎022(222)5623代
東北支社 〒980 仙台市青葉区本町2-3-10 ☎06(251)9731代	日本生命御堂筋ビル10F ☎092(473)9321代
大阪支社 〒542 大阪市中央区南船場4-2-4 ☎092(473)9321代	丸の内ビル博多ビル8F ☎0186(31)2680代
九州支社 〒812 福岡市博多区博多駅前2-19-27 ☎0186(31)2680代	村上第2ビル4F ☎025(228)6515代
盛岡出張所 〒020 盛岡市中央通り1-11-15 ☎0186(31)2680代	高工中倉第一生命ビル9F ☎025(228)6515代
秋田出張所 〒010 秋田市中通り2-4-19 ☎0186(31)2680代	時報会館ビル2F ☎0286(38)5291代
新潟出張所 〒951 新潟市東区中環2-280 ☎0286(38)5291代	あかねビル6F ☎0292(26)8931代
宇都宮出張所 〒321 宇都宮市東郷3-1-9 ☎0292(26)8931代	安田火災茨城ビル5F ☎0272(23)6622代
水戸出張所 〒310 水戸市南町2-6-13 ☎0272(23)6622代	日本生命前橋表町ビル7F ☎0272(23)6622代
前橋出張所 〒371 前橋市表町2-10-19 ☎0272(23)6622代	